

The cover features a white background with several overlapping circles in yellow, orange, blue, and green. At the bottom, there is a stylized landscape with green trees and a blue wavy line representing water.

環境報告書 2015

2015 ENVIRONMENTAL REPORT

CONTENTS

CONTENTS/会社概要/IR情報 1
 ヤスハラケミカル ～私たちの考え方～ 2
 トップメッセージ 3

特集 1 働きやすい・働きがいのある職場づくり 5

特集 2 工場の取り組み 7

経営分野

2015年度の事業計画 9
 本年度のビジョン/ヤスハラケミカルについて/
 テルペンの特長と利用分野/各事業の状況

環境分野

事業活動における環境配慮への取り組み 11
 省エネルギー/CO₂排出量の削減/
 大気汚染物質の排出量/産業廃棄物処理委託量/
 コラム「照明のLED化」
 サイト別 環境への取り組み 12
 新居浜工場/高木工場/福山工場
 鶴飼工場/総領工場/川内工場

社会分野

お客様への取り組み 13
 品質管理/内部品質監査/顧客満足
 株主・投資家の皆様への取り組み
 株主総会/株主還元
 従業員への取り組み 14
 仕事と家庭の両立支援/健康管理
 地域社会への取り組み
 スポーツ支援/清掃活動/職場体験学習

編集方針

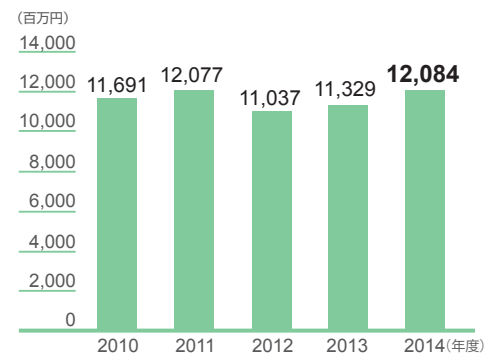
- 報告対象範囲
ヤスハラケミカル株式会社管理部門及び生産拠点
 - 報告対象期間
2014年4月～2015年3月(一部期間外のトピックスを含みます)
 - 次回発行予定
※2016年6月発行予定です。
 - 発行担当部署
ヤスハラケミカル株式会社 総務部
TEL(0847)44-6082(ダイヤルイン)
FAX(0847)45-8639
- 本報告書に関するご意見・ご質問は上記までお願いいたします。

会社概要

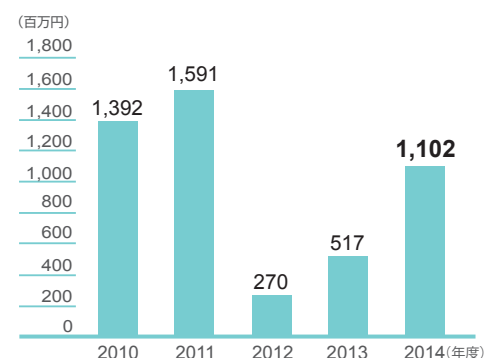
商号/ヤスハラケミカル株式会社
 YASUHARA CHEMICAL CO., LTD.
 本社/〒726-8632 広島県府中市高木町1080番地
 創業/1947年(昭和22年)4月
 設立/1959年(昭和34年)2月24日
 決算月/3月
 資本金/17億8,956万円
 主な製品/■テルペン樹脂事業(テルペン系樹脂)
 ■化成品事業(合成香料原料、テルペン溶剤、ワックス)
 ■ホットメルト接着剤事業(ホットメルト接着剤)
 ■ラミネートフィルム事業(光沢ラミネートフィルム)
 従業員数/265名(2015年3月31日現在)
 証券コード/4957

IR情報

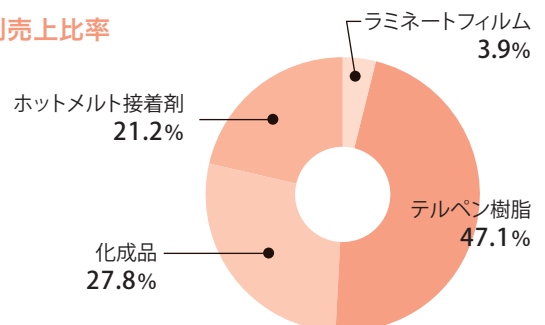
売上高の推移



経常利益の推移



セグメント別売上比率 (2014年度)



ヤスハラケミカル ～私たちの考え方～

【基本理念】

自然の恵みと科学技術を融合させる独創企業として、産業と生活の向上につながる活動領域をひろげます。

テルペン化学で培った創造と挑戦の精神をもって、自然界の無限の可能性を引き出し、産業への高品質・高付加価値品の安定供給を通して、社会の発展、便利な暮らし、心豊かな暮らしに貢献します。

ヤスハラケミカルの紹介

ヤスハラケミカルは環境にやさしい天然由来の「テルペン」を主原料とする化学メーカーで、粘・接着剤、ゴム・プラスチックの改質剤、香料、塗料の添加剤などの工業原料を製造しています。

ヤスハラケミカルの目指すところ

私たちは、従来利用されていなかったものを原料として有効性を見出し、「社会に還元する」精神のもと高付加価値な製品を提供してきました。今後も、事業活動を通じて、社会の発展、持続可能な暮らしの実現を目指してまいります。

「テルペン」とは？

植物の体内で作られる物質で、オレンジなどの柑橘類の皮から採取される「オレンジ油」や松の木から採取される「テレピン油」に多く含まれています。テルペンは、将来の枯渇が心配される石油資源とは異なり、植物が太陽の恵みをもとに繰り返し作り出すことができる再生可能な貴重な資源です。





ヤスハラケミカル株式会社
代表取締役社長

安原 稔 二

Teiji Yasuhara

今の日本の景況感は表層的なものかもしれませんが、本質を見極めて体制を整えることが大切です。

当社を取り巻く国内外の経済は、原油安や円安など、あいかわらず不安定な状態が続いています。

しかし今回の原油安の要因を詳しくみると、実体経済とはかけはなれた金融市場の思惑と、中国経済減速による下押し圧力が強まったことの影響が大きいと捉えています。

こうした原油安や円安は、一時的には日本経済に好影響を与えていますが、このまま原油安が続きすぎるのはよくないと考えています。原油安が続くと世界経済そのものの減速に繋がりがねません。一方、株価は上昇し、表層的には好景気に見えますが、日本経済の実態を反映した動きでもありません。その本質を見誤らないようにしておくことが大切です。

ヤスハラケミカルは、今期おかげさまで増収増益を達成しましたが、原油安や円安の影響によりお取引先様の業績が好調なことも、その要因のひとつと捉えています。しかし今後の日本経済を展望すると、内需の成長見込みや消費動向

において、厳しい状況が続くことが予想されます。

こうした状況を冷静にみつめ、より厳しい状況になっても収益性を確保できる強い体制を整えておくことが重要だと考えています。

地球規模で必要とされていくものを見極め、グローバル展開を進めていきます。

今後の日本経済は、生産年齢人口の減少から内需の伸びは期待できず、国家財政状況により消費税増税も予想されることから、かつてのような経済成長を遂げるシナリオは描けません。このことを、しっかりと認識すべきです。

国内の需要が縮小する中で収益が確保できる体制を整えるために、今後はグローバル戦略がますます重要になります。それは単に新興国などのお取引先様を増やすという意味ではなく、お取引先様の2次3次の輸出状況を含め、今後地球規模で何が売れていくのかをしっかりと見極め、それに対応する製品を提供していくということです。

わたしたちを取り巻く環境を正しく認識し、利益を生み出せる体制を整えていきます。

その中で、中国経済の状況は、注視していく必要があると考えています。それは、中国は市場規模が大きく、多くの日本の企業にとっても影響力が高いことから、その動向に注視していく必要があるということです。

グローバル展開を進める上で最も大切なことは、今世界で起きていることや相手国の本質をしっかりと見ていくことだと私は思っています。テレビや新聞で伝えられる情報は、表層的な事柄にすぎません。その国の本質を知るには、近代史を学ぶことが必要です。中国にせよイスラム社会にせよ、現在の国家としての枠組みができたのは、この50年～100年の間のことです。その国の近代史を学び文化や社会の背景、すなわち過去を知っておくことで、その国の今や、人々が求めるものの本質が正しく見えてくるはずですよ。

既存のものをより強くするための投資だけでなく、未来に向けての投資も、より積極的に行います。

収益力を強くする上では、グローバル展開を促進するとともに、時代や社会の変化を的確に読み取り、自らの収益構造を進化させていくことも重要です。日本に、またいつか昔のような成長期が訪れるという淡い期待を抱いている人もいられるかもしれませんが、将来はより厳しい時代になるのではないかと私は認識しています。

それは今売れているものが、将来もまた同じように売れ続けるかどうかはわからないからで、淡い期待で今売れているものだけに投資を続けたのでは成長はありません。次の時代に売れそうなもの、より収益をあげられそうなものを探して先に投資していかないと、企業にとっての成長がないと思うからです。

これまで既存のものをより強くするための生産設備投資を続けてきましたが、これからはより積極的に未来へ向け

ての投資も行うつもりです。

またそれに伴い、既存生産設備の安全性の向上とともに、品質管理や環境性能の向上も同時に進めていきます^{※1}。

分野・用途の開拓を加速化させるため、「人のチカラ」をさらに高めていきます。

かつての日本は、先進国の製品をより高性能にすることで成長ができました。しかし、今は、新興国に追いつかれてフォロワーとの違いを出すことができなくなっています。

これからは、ソフトとハードの両面で差別化を図っていくことが必要で、そのためには「人のチカラ」を伸ばしていくことが不可欠と考えています。

そのためヤスハラケミカルでは、すでに数年前から「人のチカラ」を最大限伸ばせるよう、教育体制と職場環境の整備を進めています^{※2}。

人材の確保が厳しい状況の中、組織を強くしていくには、女性の活躍推進もその一部となってきます。女性がかかり社会進出している時代に、女性が活躍できる職場を整備することも必要となってくるでしょう。

これからの日本にかつてのような成長を望むことは、極めて難しいと思います。そのことを憂うのではなく、危機感を持った上で、生き残るための準備をすることが大切です。社員には、過去を知り、今を知ること、わたしたちがいる府中市を知り、世界を知ること、そして、興味のあるところを深掘していくことを望んでいます。ヤスハラケミカルは時代に沿った成長を描き、利益を生み出せる体制を整えていきます。

※1 詳細はP7からの特集②「工場の取り組み」をご参照ください。

※2 詳細はP5からの特集①「働きやすい・働きがいのある職場づくり」をご参照ください。

職場の活力をさらに増すために、 「人のチカラ」を引き出す環境を整えています。

ヤスハラケミカル成長の原動力は「人」です。
従業員一人ひとりが安心していきいきと働ける環境をつくることで、
その先に顧客満足・社会の発展・心豊かな暮らしがあると考えています。
社会に貢献できる喜びと誇りに満ちあふれた企業を目指して、
働きやすく働きがいのある会社にするための
取り組みをご紹介します。



教育・研修制度

ヤスハラケミカルでは、「学ぶ」「考える」風土を全社に浸透させるため、2009年より新教育体系プログラムを導入しています。2014年11月には、次世代のリーダーとなる主任クラスの従業員を対象として「職場リーダー活性化研修」を実施しました。本研修は、講師の先生との綿密な事前打合せのもと、参加者

が、組織内での自分が置かれている立場を理解し、職場の問題を主体的に考えられる思考を身につけられるような内容としました。

今後も従業員のチカラをさらに引き出すために、教育制度の充実を図っていく予定です。



体験に基づいたテーマ設定により、 実地に即した活性化手法を学びました。

一般的なリーダー研修では、リーダーとしての心得や理論を学ぶことが多いと思いますが、今回参加した「職場リーダー活性化研修」では場面に応じてリーダーシップをどのように発揮していくかを考えることに主眼を置いた研修でした。その内容も教科書的なものではなく、講師の体験に基づいた実例が多く示され、その対処法を考えることで、日常でのチームの活性化を図るヒントをたくさん得ました。自分の考えをしっかりとチーム内に伝えるだけでなく、連携する部署とのコミュニケーション強化の重要性も再認識でき、とても有意義な研修となりました。



新居浜工場検査課 小林 秀司



従業員の心と身体のケア

ヤスハラケミカルは、従業員の心身の健康増進と働きやすい職場づくりの一環として、メンタルヘルスケア体制の構築に取り組んでおり、2013年から、外部専門業者を利用した従業員支援プログラムを導入しています。

2014年8月には、全従業員を対象として、ストレスチェックを実施しました。チェックシートは会社を通さず、直接専門業者へ送られるなど、プライバシー保護には十分な配慮が

なされています。ストレスチェックは来年度以降も継続的に実施する予定です。

同時に、2015年1月からは専門家による健康面談を受けられる体制を構築しています。この健康面談においても、従業員の個人情報は会社側に一切知らされることはなく、従業員は安心して健康面談を受けることができます。



ヘルスケアプログラムを活用して、
従業員の健康と職場の活力を創造していきます。

ヘルスケアは個人情報を含めとてもデリケートな事柄です。ストレスチェックの実施に際しては、従業員に不安なく参加していただくために、本社をはじめとする全10拠点で説明会を行いました。

ストレスチェックにより自分の健康状態を把握できますので、従業員のセルフケアの一助となればと思っています。また、拠点や部門ごとに健康リスクやストレス因子を確認することで、職場環境の改善に役立てたいと考えています。



総務部総務課 中村 文子



ワークライフバランス支援制度

ヤスハラケミカルでは、従業員がライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できるよう、仕事と家庭の両立支援制度の充実を図っています。2014年度は、育児休業の取得率が100%となっています。

職場環境づくりの面でもワークライフバランス推進を図り、

鵜飼工場では、「ノー残業デー」を設定しています。毎週水曜日は原則として定時で退社することを定め、家族との時間、趣味やスキルアップなどの時間の確保を図っています。



産前産後の休暇制度に加え短時間勤務も可能。
急な休暇時のフォローもあり安心です。

ヤスハラケミカルには、予定日の6週間前から取得できる産前休暇制度があります。私は2013年5月から産前休暇をとり6月に出産。そのまま育児休業を利用し、翌年の6月に職場復帰しました。復帰当日から通常業務をさせていただいたことで、すぐに以前の感覚を取り戻すことができ、スムーズに仕事に戻れたと思います。

また復帰後も、毎日9時から午後4時までの育児短時間勤務制度を利用しています。子供の急な発熱の時も、職場の方にフォローしていただいているので、安心して子育てと仕事の両立ができています。



品質環境保安室
品質保証グループ 下江 智子

「安全・品質・環境」への絶え間ない取り組みが、 企業を着実に成長させていきます。

ヤスハラケミカルの各工場では、生産性向上を推進すると同時に、

「安全・品質・環境」の改善に取り組んでいます。

「安全・品質・環境」への取り組みは、

お客様に高品質な製品を安定的に提供するだけでなく、

従業員のスキル向上やワークライフバランスの実現を

推進することにもつながります。

ここでは2014年度における

「安全・品質・環境」への取り組みの一例をご紹介します。



① 「安全」への取り組み

「平成26年度広島県石油コンビナート等総合防災訓練」への参加

2014年10月29日、当社福山工場を会場として、「平成26年度広島県石油コンビナート等総合防災訓練」が実施されました。この防災訓練は、昭和44年から隔年で広島県内4箇所の石油コンビナート地区持ち回りで実施されているもので、今年で24回目となります。主催は広島県と福山市、参加機関は警察・海上保安庁・消防・NTT・中国電力など24機関、約330人参加という、防災関係機関と関係事業所が連携した大規模な訓練でした。

訓練の想定は、「長者ヶ原断層帯を震源とするM7.4の地震

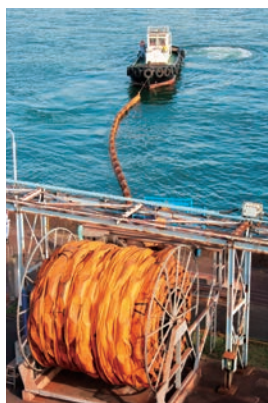
が発生、福山地区沿岸部に最大震度6弱を観測」とし、陸上訓練と海上訓練が実施されました。

陸上訓練では、当社福山工場自衛消防隊も参加し、化学消防車による初動措置及び消火活動とともに、タンク火災を想定した冷却訓練及び延焼防止活動を行いました。

また海上訓練では、オイルフェンス展張訓練と流出油防除訓練に参加し、迅速で的確な動作を披露し、当社の防災活動のレベルの高さを社内外にアピールしました。



タンク火災とオイル漏れを想定した訓練の様子



福山工場自衛消防隊のメンバー

② 品質への取り組み

特殊原材料の貯蔵方式見直しによる品質向上

ヤスハラケミカルで扱う原料の中には、貯蔵時に温度が上昇すると重合反応が進み、危険な状態となる原料もあります。そのような原料に関しては、24時間低い温度を保つ温度調整システム付の貯蔵タンクに保管し、重合を抑制しています。従来の温度調整システムでは、高い貯蔵水準を維持する必要

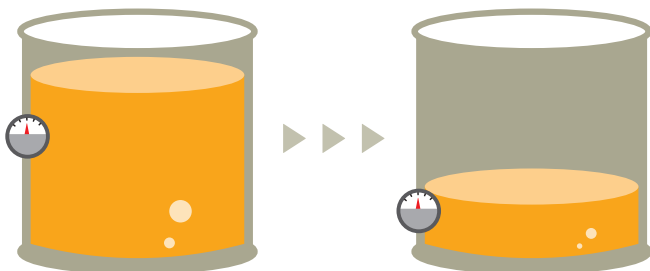
があり、消費サイクルが長くなることで品質劣化を招き、これを使用した製品の品質と収率に影響を及ぼしていました。そこで原料の温度調整システムを見直し、低い貯蔵水準でも一定の低い温度で貯蔵できるよう変更しました。これにより原料貯蔵期間中の品質劣化を防止することができました。

改善前

長期に低温貯蔵するには最低15トンの貯蔵量が必要

改善後

少ない貯蔵量でも一定の温度調整を可能にした



担当者 福山工場 製造課
田邊 豊彰



技術一部技術一課
尾浪 淳史

③ 環境への取り組み

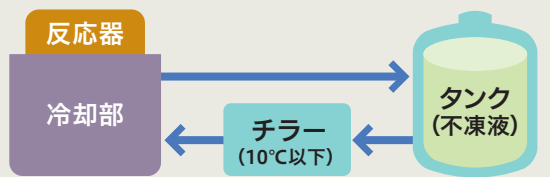
樹脂反応器の冷却方法見直しによる省エネ

製造工程の樹脂反応器では、反応熱が発生します。この熱を冷却するため、従来はチラー（冷凍機）で不凍液を10℃以下に冷却したものを利用していました。この冷却方式の見直しを行い、夏期は、冷却水を不凍液から伝熱効率のよい水に切り替えることで、チラーの設定温度を

高く設定することができ、省エネを達成しました。また冬期はチラーそのものを停止することを可能としました。チラー停止やチラーの使用電力削減などの改善効果により、年間を通して大きな環境負荷低減効果が得られるようになりました。

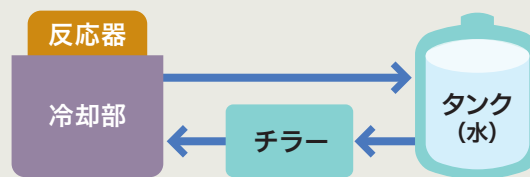
改善前

チラーで不凍液を10℃以下に冷却したものを使用していた



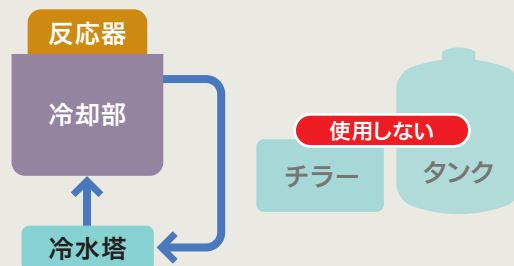
改善後
夏

不凍液の使用をやめ、チラーの設定温度を上げて使用電力を20%削減した



改善後
冬

チラーの使用をやめ、使用電力をさらに削減した



担当者 技術一部技術二課
青木 真也

2015年度の事業計画

》》》 本年度のビジョン

当社を取り巻く事業環境は、国内需要の低迷や価格競争の激化、円安による原材料価格の上昇により厳しい状況を迎えることが予想されます。このような中で本年度は「企業体質の改善」を進めていきます。具体的には収益構造の改善、海外市場を見据えたグローバル展開、高付加価値が見込め

る分野・用途の開拓を進めていきます。またこれらを推進するために不可欠な「人のチカラ」を最大限に引き出すために、人材育成をはじめ、ワークライフバランスの推進などに取り組み、従業員がより高いポテンシャルを持って働けるようにしていきます。

》》》 ヤスハラケミカルについて



オレンジジュースの副産物であるオレンジオイルと、松脂や松のチップなどから採取されるテレピン油を原料として、各種テルペン成分を分離精製しています。

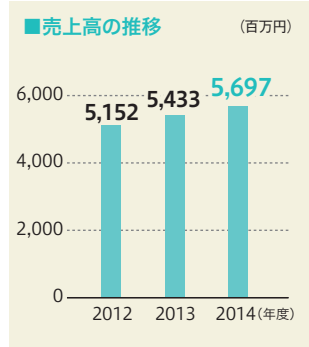
テルペン成分をテルペン樹脂や化成品に加工し、ホットメルト接着剤、ラミネートフィルムを合わせた4事業に展開しています。

》》》 各事業の状況

テルペン樹脂

天然素材であるテルペンを主原料としており、粘・接着剤用の粘着付与剤、ゴムやプラスチック等の改質剤として、幅広い用途に利用されています。

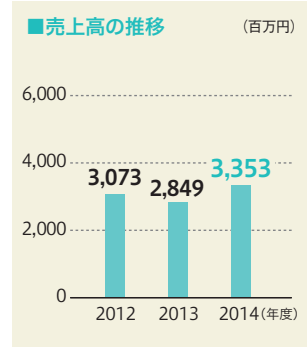
近年は、環境対応製品や自動車関連部材、光学、医療などの高付加価値分野の開拓に注力しています。



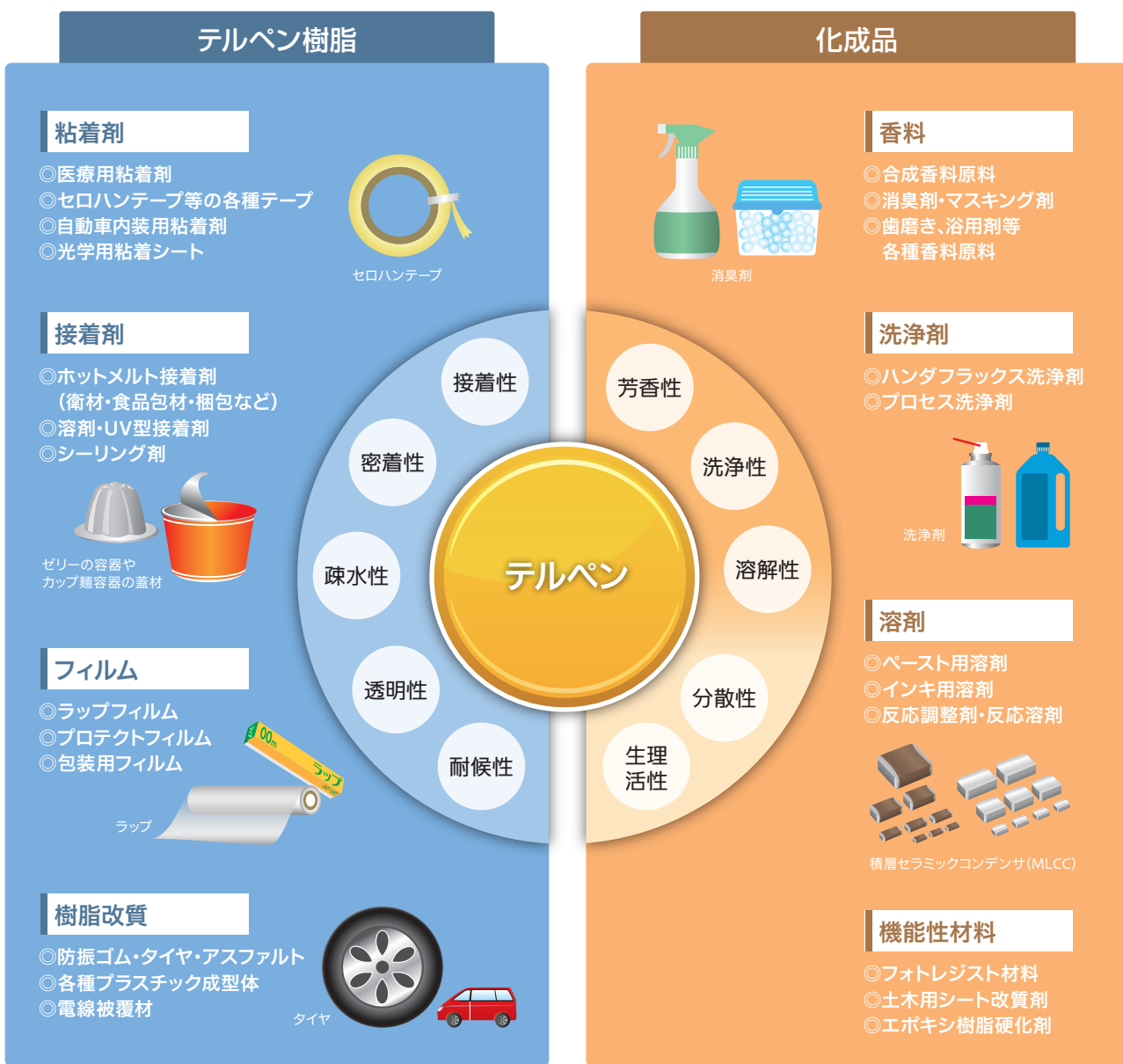
化成品

オレンジオイル、テレピン油を精製・異性化して得られるテルペン誘導体を香料原料、溶剤、洗浄剤等に展開しています。

本事業の収益性向上のため、電子部品向け溶剤や特殊化学品の拡販と、生理活性分野などテルペン類の機能が活かせる用途探索に努めています。



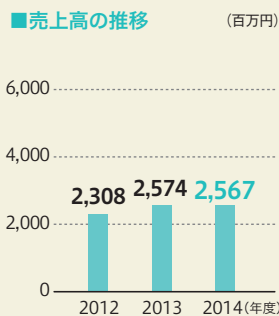
》》テルペンの特長と利用分野



ホットメルト接着剤

包装用接着剤、日用雑貨用粘着剤、アセンブリ用接着剤、ゼリー容器などの蓋材向け押し加工用樹脂を製品化しています。

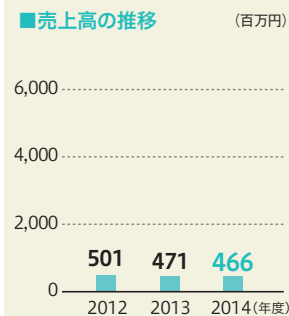
耐熱性の良い包装用接着剤の展開と、透明性が高く、加工性の優れた食品包材用共押し樹脂の実用化を進めています。



ラミネートフィルム

製本の光沢やショッピングバッグなどの艶出し用フィルムとして使用されます。OPPやPETフィルムに接着樹脂を押し塗工しており、熱圧着することで貼り合わせることができます。

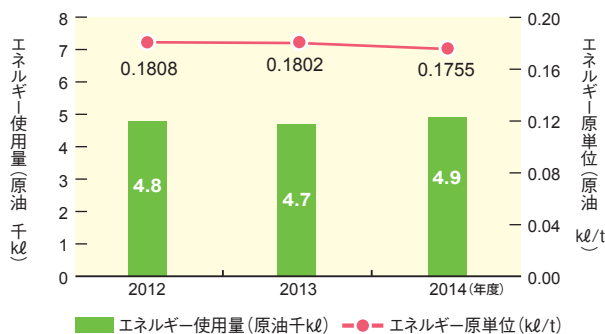
光沢市場が縮小するなかで、収益性向上のため不織布に筋状コーティングした接着性シートの用途探索を行っています。



事業活動における環境配慮への取り組み

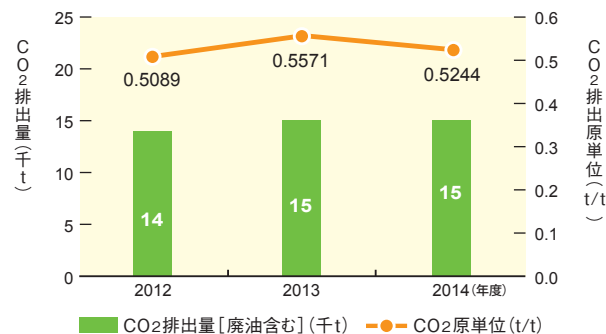
省エネルギー

2014年度は生産性向上の推進、照明のLED化などの省エネルギー活動に取り組み、エネルギー原単位は対前年比2.6%減少しました。今後とも省エネに関する情報を収集し、幅広い視点で省エネルギー活動を継続してまいります。



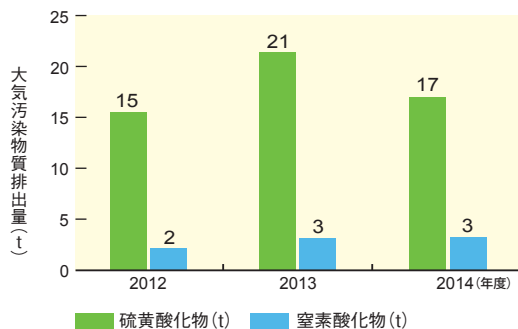
CO₂排出量の削減

2014年度は省エネルギー活動により、CO₂排出単位は対前年比5.9%減少しました。引き続きCO₂排出削減に努めます。なお、2013年度の増加は、電力各社の排出係数引き上げによるものです。



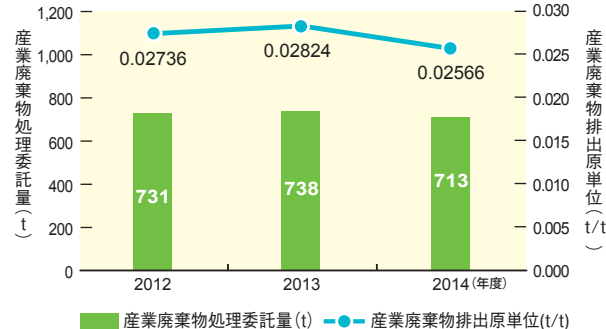
大気汚染物質の排出量

2014年度は原料蒸留残渣のボイラー燃料活用等により、硫酸化物排出量は対前年比19%減少しました。今後とも大気汚染物質の排出削減に努めます。



産業廃棄物処理委託量

2014年度も継続して生産ロスの削減、有価物への転換などの産廃削減に取り組み、産業廃棄物排出原単位は対前年比3.4%減少しました。今後とも産廃削減、再利用等に努めます。

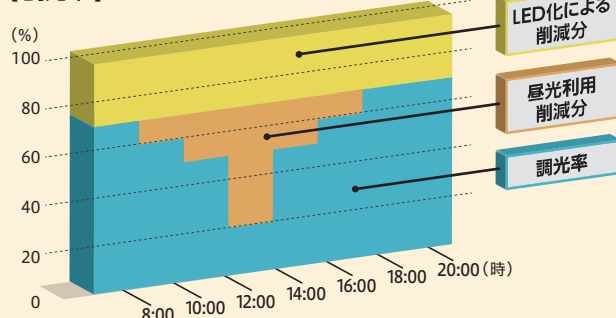


コラム

照明のLED化

2014年、本社事務所及び鶏飼工場において、消費電力の削減を目的として、全ての照明のLED化を行いました。通路や階段には人感センサーを設置し、照明の自動点灯・消灯化を図りました。事務エリアでは調光制御を導入し、昼間の明るい時間帯は、照度を自動的に落として、大幅な節電が可能となりました。照明電力は年間70MWh(60%相当)以上の削減見込みです。

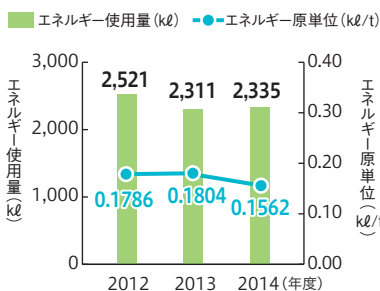
【調光率】



サイト別 環境への取り組み

新居浜工場

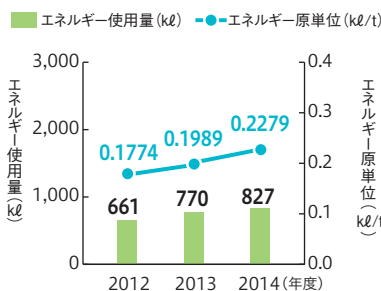
所在地／愛媛県新居浜市黒島一丁目7番7号
従業員／45名
事業内容／テルペン樹脂、化成産品



新居浜工場

高木工場

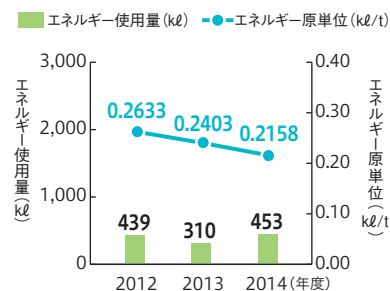
所在地／広島県府中市高木町1080番地
従業員／36名
事業内容／化成産品、テルペン樹脂



高木工場

福山工場

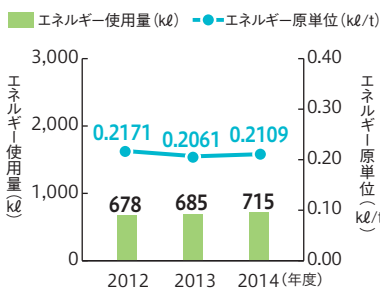
所在地／広島県福山市箕沖町117番
従業員／56名
事業内容／化成産品



福山工場

鶉飼工場

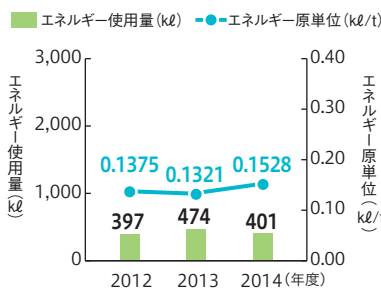
所在地／広島県府中市鶉飼町800番111
従業員／50名
事業内容／ホットメルト接着剤、ラミネートフィルム



鶉飼工場

総領工場

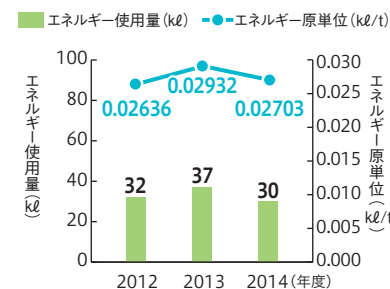
所在地／広島県庄原市総領町亀谷1065番1
従業員／10名
事業内容／ホットメルト接着剤



総領工場

川内工場

所在地／鹿児島県薩摩川内市港町字松原360番14
従業員／3名
事業内容／化成産品

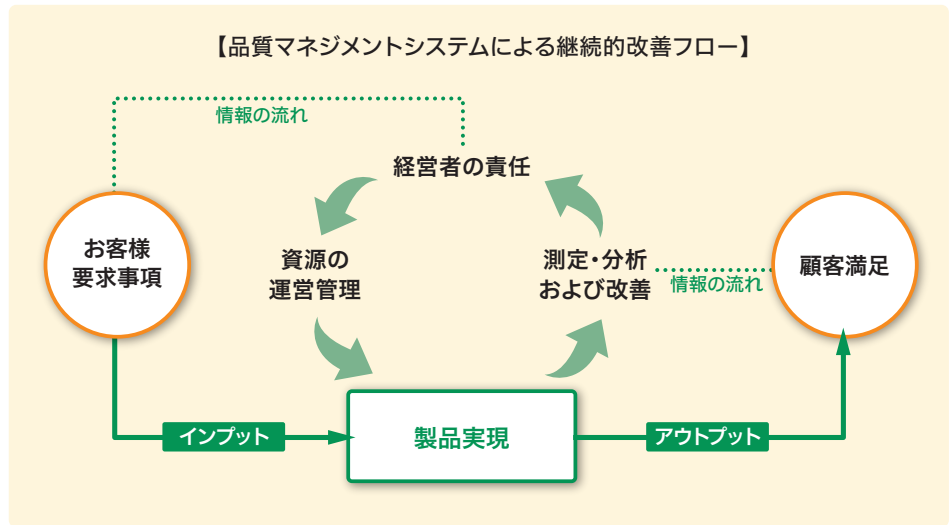


川内工場

お客様への取り組み

品質管理

私たちは、基本理念に基づき、「お客様の満足と信頼をいただくために、常にニーズに合った品質の製品を経済的、安定的に提供します。」を品質方針に掲げ、全社的な品質保証活動を実践しています。



内部品質監査

当社では、品質保証活動を確実に行うために、内部品質監査を実施しています。

2014年は、外部講師を招いて社内で「内部監査員養成セミナー」を開催しました。その他、社内外の教育や実際の内部監査への研修参加によって、現在では、内部品質監査員として全従業員の22%に当たる60人が社内認定されています。

顧客満足

品質管理活動における継続的改善の結果、品質苦情の件数は、2010年をベンチマークとした場合、2011年は4%、2012年は36%、2013年は60%、2014年は32%減少しています。

株主・投資家の皆様への取り組み

株主総会

株主総会は、毎年6月中旬に開催しています。2014年度は、47名の株主の皆様に参加いただきました。総会後には近況説明会を開催し、社長より、決算内容とともに、今後の経営方針、事業の展望などについて説明を行いました。また、株主・投資家の皆様へのIR情報開示の充実にも努め、プレスリリースをはじめ、「決算短信」「年次報告書」「有価証券報告書」「株主総会招集通知」「決議通知」などをホームページに掲載しています。今後も適時適切な情報開示を行います。



株主還元

当社は、株主の皆様の中長期的な利益確保を図ることを基本方針に、安定的な配当を実施しています。なお、2014年度は1株につき年間12円の配当を行いました。

従業員への取り組み

》》 仕事と家庭の両立支援

育児休業制度、介護休業制度、育児短時間勤務制度など、様々な制度を運用し、仕事と家庭の両立を支援しています。2011年から導入した、時間単位の年次有給休暇制度は、学

校の行事や通院など必要な時間分だけ有給休暇を利用できる制度で、多くの従業員が活用しています。



制度	概要	2012年度	2013年度	2014年度
育児休業制度	子が1歳に達するまで	0名	7名	4名
介護休業制度	介護の必要な家族1人につき 通算93日まで	1名	1名	0名
育児短時間勤務制度	子が小学校3年生終了まで勤務時間を 9:00~16:00(または16:30)に短縮可能	4名	3名	6名

》》 健康管理

毎年10月、「全国労働衛生週間」中の行事として、産業医による衛生講話を開催し、従業員の健康管理を積極的に推進しています。

2014年は、高木工場、鶉飼工場に勤務する従業員を対象として、「お酒の話しあれこれ」をテーマに、肝臓に関する講話を行い、約50名の従業員が聴講しました。



地域社会への取り組み

》》 スポーツ支援

当社は、女子バレーボール市民クラブチーム「岡山シーガルス」を応援し、スポーツ振興に取り組んでいます。

2014年11月22日は応援バスツアーに参加するなど、「岡山シーガルスを応援する会 府中支部」として活動を行っています。

》》 清掃活動

地域社会への感謝の気持ちを忘れずに、本社事務所、各工場周辺の清掃を定期的に行っています。今後も継続した活動を行っていきます。

》》 職場体験学習

地域の学校の生徒を対象に職場体験学習を実施・開催しています。2014年は、8月18日から8月22日の期間、鶉飼工場に2名、総領工場に1名の中学生が職場体験学習に訪れました。





<http://www.yschem.co.jp/>

ヤスハラケミカル株式会社

〒726-8632 広島県府中市高木町1080番地 TEL:0847-45-3530 FAX:0847-45-8639

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを
採用しています。